

## 第1回全体勉強会 事業報告

### 【趣旨】

2027年のリニア中央新幹線の開通及びリニア飯田駅の設置に向けて、地域の将来像が様々示されました。南信州リニア将来ビジョンの一環として、飯田市から「3重心」（「都市重心」「人口重心」「交流重心」）によるまちづくりビジョンが示されました。

特にリニア駅と拠点集約連携型都市構造における中心拠点としての中心市街地（通称 丘のまち）の位置づけが明確に示され、「都市重心」として、当地域の中心拠点としての役割が改めて明確化され、同時に「交流重心」「人口重心」との連携も視野に地域全体を考えたまちづくりの重要性が求められています。そこで、今回の勉強会において、これらの構想を共有し、今後の具体的展開を考え、目指すべきビジョンを共創実現するきっかけとなる事を位置づける勉強会を開催したいと思います。

### 【テーマ】

南信州リニア将来ビジョンにおける飯田市の「3重心」によるまちづくりを学ぶ！！

— 「都市重心」「人口重心」「交流重心」の目指すべき機能と役割とは —

### 【開催日時・場所】

令和4年 6月3日金曜日 19時～20時45分

### 【参加人数】

勉強会 51名 情報交換会 36名

### 【内容】

まず南信州広域連合事務局長 吉川昌彦氏より南信州リニア未来ビジョンの概要説明を受け、広域連合としての南信州の未来ビジョンを考察、続いて飯田市企画部長 塚平賢志氏より飯田市の掲げる「3重心」による機能と構造のまちづくり概要説明を受けた。参加者から「3重心」とした考え方の詳しい過程と道義付け、具体的機能と役割をどのように実現していくか等の質問がいくつもあった。今後、フォーラムとしての事業展開の進めるうえで「3重心」の討論し、提言書への方向性をまとめる旨、確認できた。

## 第2回全体勉強会 事業報告

「リニア駅開通を控えた飯田市下伊那の戦略的広域まちづくりの進め方」

ー リニア駅と中心市街地の役割を考える ー

講師 佐々木 宏幸 氏

明治大学理工学部建築学科建築アーバンデザイン研究室教授

令和4年11月26日土曜日 10時から12時

アーバンデザインとは

都市は、建物の集合体ではなく、それ以外の空間を含めた総合を考える

都市空間 建物以外の空間を意味し、

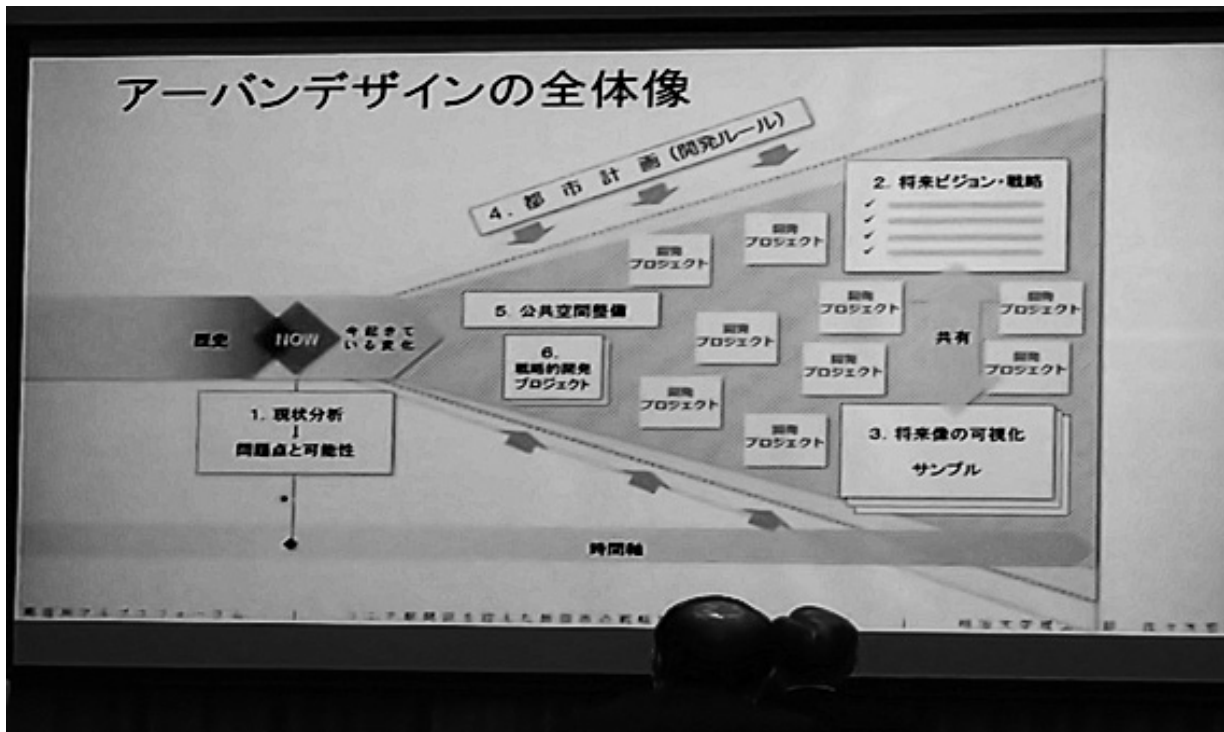
建物と建物以外の空間（公共空間）を豊かにするもの

戦略的アーバンデザインとは、都市空間のデザインをもとに都市を豊かにする

既存市街地の再生、活性化を目的に、賑わい活気溢れるまちを目指す

公共空間のデザイン      ゾーニングの確定      都市計画のルールづくり

大きなビジョンと小さな状況の成功を繰り返しながら実施していく、その際住民との情報や体験の共有、イメージの共有大事



リニア時代の飯田

シチュアショニスト 出来事をテーマ、状況の構築 関係性を強化する

小さな仕掛けで新たな状況を創る  
人もの空間で地域と都市をつなぐ  
ものを通して、人の魅力を伝え、地域に目を向けてもらう

リニア駅と中心市街地は地域の重要な拠点である、地域の中心的存在で価値ある  
リニア開通により、市街地の都市構造は劇的に変わる、しかし・・・

丘の上は、オンリーワンの価値がある まとまった地域としての価値 地形的にも  
歴史的にも  
地域にとっての唯一無二の存在 中心的存在が価値ある

現状の中心市街地は、わかりやすい都市構造

桜並木からりんご並木と谷川沿いの中央公園がクロスし、その頂に JR 飯田駅  
無数の機能が広大に分布点在しすぎて、まとまりない 個々は魅力的

しかし、現状の丘の上は、人通りがすくない  
人の賑わいをどのように生み出すか  
商業、ビジネスとして成り立たせる状況が必要

ひともの空間を活かし、魅力的な複数の拠点を整備 それを視える化する（現状視  
える化されていない） 星雲の丘 拠点を一等星  
状況を創る 視える化、体験化、  
小さな出来事の積み重ね 断片の集合体  
生活、活動の積み重ね 小さなアクション繰り返しが恒常化され賑わい作る  
大きな計画ビジョンの枠内で、 小さな状況プロジェクト実践を積み重ねる

公共施設やハード整備に関して

施設の波及効果を考え、周辺地域との関係性を考慮する  
施設の役割をきちんと検証する

コロナ禍において 人の移動が制限されている 固定化している

ものやサービスが都市空間を移動する 食品フードコートが移動しサードプレー  
スに 市民の憩いの場作る あるいは憩いの場に移る 商業施設での展開可能  
丘の上における飲食も移動式レストランやフードトラックによる提供でも

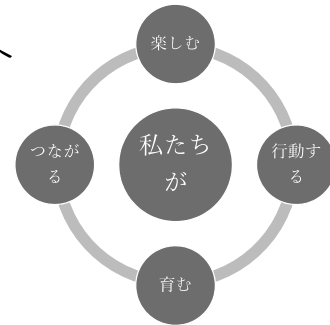
空き家空き店舗も多目的利用によって、十分活用する重要資源  
会議室、まちなか MICE、週末店舗、サテライト教室、オフィス

## リニア時代における中心市街地の在り方

### 1. 私たちの取り組み方、考え方

昔は良かった、というノスタルジーに浸るのではなく、どういう地域に住みたいか、を真剣に考え選択をせざるを得ない。「快適、便利」を安易に求めた結果、人間関係を希薄化させ、社会の安定性を欠くことになりかねない。短期的な便益を享受することのみに向かうのではなく、みずからが考え行動するコストを払うことで長期的な地域の再構築を考える。

中心市街地は、晴れの間から自己実現、自己表現の間へ  
中心は、「わたしたち・・・」



### 2. 自己実現表現の間

私たち、地域住民が、やってみるを実践する場所 空間 コンテンツを提供  
かつては、晴れの間、これからは、日常の間へ 特別から普段普通なとき  
時間と空間の提供

ハード(施設)だけではなく、そこを取り巻くコンテンツが重要 コンテンツ作りがまちづくり 継続する

高度成長、モータリゼーションの普及、情報の共有化が進み、快適、便利な都市への集中、憧れが進む中、地域は・・・。

結果、「この地域には、何の魅力もない、誇れるものがない」「この地域には何もない」とあきらめの中、自ら問い直し、自信と誇りを取り戻すときが来た

「本当の豊かさとは何か」「しあわせとは？」 これらをテーマに地方が見直されてきた  
自然と人との交わり、地域社会の絆の回復、等 行き過ぎたグローバル化都会化への警鐘、その反動によるローカル化

自分事としての地域を考える 何ができるか 地域と自分のアイデンティティを問う問題  
本当の幸せな暮らしを追求する場と時間







発行所  
南信州新聞社  
〒395-0152 飯田市育良町2-2-5  
電話 (0265) 代表 ☎3734  
編集 ☎0704 FAX ☎7072  
編集 ☎0352 FAX ☎0537  
出版 ☎3732 FAX ☎7072  
振替口座 00590-0-3452

リオネットセンター  
飯田  
**補聴器**  
認定補聴器専門店  
認定技能者常駐  
☎(0265)49-0250  
飯田市白山町3丁目南5-5

**きょうの紙面**

|                |           |           |               |               |               |
|----------------|-----------|-----------|---------------|---------------|---------------|
| 10             | 9         | 8         | 7             | 3             | 2             |
| 「大宮通り」来月10日点灯式 | 飯伊の読書会が交流 | 特集 飯田焼肉の日 | 子どもの森公園で屋台フェス | 遠山中生徒が英語で魅力紹介 | いいだしもいな再発見11月 |

# 市街地に長期ビジョンを

リニア県内駅  
開業に向け 明大・佐々木教授が助言

南信州アルプスフォーラム(外松秀康会長)は26日、第2回全体勉強会を飯田市内で開いた。明治大学理工学部建築学科・アーバン研究室の佐々木幸教授が「リニア駅開通を控えた飯田下伊那の戦略的広域まちづくりの進め方」リニア駅と中心市街地の役割を考える」と題して話し、約40人が聴講した。佐々木教授は「丘の上はまさに今何をするかにかかっている。長期的なビジョンを明らかにする必要がある」と強調した。

佐々木教授は2017年から「デザイン」の力で街が変えられる」をコンセプトに、橋南・橋北地区をフィールドに学生、地元有志と実践実験を重ねている。この日は「大きな都市構造でなく魅力的な拠点を複数つくり、輝く『点』の集合体」に大きな意味を持たせる」という方針に基いた裏界線、針に基いた裏界線、春草通りなどの取り組みを振り返り「今、まず何ができるかを考えてきた。イベントを開くことで人に気付き、周辺の地域資源に変化を悪影響となるか良い影響となるかはまさに今何をするかにかかっている」と指摘した。

ジェクトの方向性を決めていくといい」とアドバイスした。自身や学生から見た飯田は「東京とは全く違う。少なくともオンリーワンな場所になる可能性を秘めていると感じる」と評価し、引き続き「魅力的な人、モノ、空間を生かして世界的に見ても飯田ならではのものの」の創出に貢献する考えを示した。



佐々木教授を迎えて開いた全体勉強会

のビジョン策定と提言活動に向け、12月22日のリニア中央新幹線県内駅着工を前に開いた。

## 地域共生拠点の愛称募集

松川町 コンセプトは「みんないっしょ」  
松川町は、2024年度のオープンな1(仮称)の正式愛称を12月1日から28日までに募集する。町設置

在住者がかりが応募で同協福社協社法人部事業による

を展開もが気のふりの設けら造2階積は

の町は「しよ」の地域として親しみやすい

選定を行い、状を呈当る。応答上片編所、

1(仮称)の正式愛称を12月1日から28日までに募集する。町設置

### 第3回全体勉強会 事業報告

#### 【趣 旨】

2023年5月から、ウイズコロナが本格化していく中、リニア中央新幹線の（仮）南信州駅が着工し、飯田市の丘の上地域をどのように再生していくのかが、改めて問われています。信州大学の誘致などの可能性や今まで積み重ねてきた、人形劇フェスタ、アフィニス等の文化芸術からのアプローチ、ムトス飯田に代表される飯田のまちづくりの伝統が、これからの飯田の様々な可能性を提供しています。

このような文化やまちづくりの考え方を再確認することで、飯田下伊那地域の中心となる、丘の上地域をどう再生していくのかの課題や提案を会員全体で考え、当フォーラムでの新たな提案につなげていこうと思います。

【タイトル】 「リニア中央新幹線開通以降の飯田市丘の上の可能性を考える」

【日 時】 令和5年3月16日（木） 18:30～22:00

【会 場】 シルクホテル

【参加者】 勉強会 41名 情報交換会 20名

#### 【発表者】

|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 井坪 隆 氏 | 飯田文化協会 副会長                  |
| 遠山広基 氏 | 元飯田市役所 職員                   |
| 水野慎二 氏 | 飯田動物園指定管理業者（株）Rethink 代表取締役 |

#### 【内容】

まず、飯田文化協会副会長、井坪 隆 氏より飯田 JC の始めた市民音楽祭が発展して市民団体の運営する飯田文化協会が発足したこと、そして現在の伊那谷文化芸術祭に至る経過、アフィニス夏の音楽祭～市民と行政が一体となり市民中心の飯田方式のオケ友にいたる経過等、黒子に徹する行政（飯田文化会館）と芸術文化の活動の話、そして、新飯田文化会館整備検討委員会の基本理念等の話があり、フォーラムの提言の骨格にもなると思われる。また、元飯田市役所職員の遠山広基氏からは、自らが携わった都市計画の観点からリニア中央新幹線開通以降の飯田市丘の上の可能性を考える話をお聞きした。中心市街地活性化委員会、人形時計塔移転など数々の丘の上の事業に対するその思いと考え方に触れ、今後、まとめていく提言書の考え方の骨格との方向性の一致をあらためて感じる事ができた。次に飯田動物園指定管理業者（株）Rethink 代表取締役水野慎二氏からは、飯田動物園の具体的な事業等の話、市民との触れ合いを作る大切さ、また、飯田動物園が現在地にあることによる効果等の話にも触れられ、飯田市民ばかりでなく、南信全域からの来場者の多さにも驚かされ、これからの丘の上の活性化のための起爆剤としてのポテンシャルをあらためて認識できた。